

学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名 愛媛県

学校名及び規模（平成15年4月現在）

大洲市立久米小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	14
児童数	25	30	39	25	29	33	3	184	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力を身につけ、自立的に学ぶ児童の育成

2 研究内容と方法

(1) 実施学年と教科

・3～6学年・算数

児童の理解の状況に差がしやすい教科・学年であるため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけるための指導方法・指導体制の工夫改善 ～算数科を中心に～</p> <p>研究の見通し（仮設） 一人ひとりの学習状況を適切に評価し、個に応じた指導を進めれば、子どもたちは基礎・基本を確実に身につけ自立的に学ぶことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 指導方法・指導体制の工夫改善 ・習熟の程度に応じた学習の展開 ・算数的コミュニケーション能力におけるめざす児童像の作成 ・算数的活動の重視 個に応じた指導のための教材の開発 ・補充的な学習のための教材開発 学力の評価を生かした指導の改善 ・各学年の「必達目標」の明確化</p>
平成16年度	<p>テーマ 自立的に学ぶ児童を育成するための指導方法の工夫改善</p> <p>研究の見通し（仮設）15年度に同じ 学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を高めることにより、自立的な学びを促すことになるであろう。</p> <p>研究の内容と方法 指導方法・指導体制の工夫改善 ・児童の実態と学習内容に応じた学習形態の工夫 ・算数的コミュニケーション能力の育成 個に応じた指導のための教材の開発 ・発展的な学習・補充的な学習のための教材開発 学力の評価を生かした指導の改善 ・評価規準の活用 ・自己評価の工夫</p>

実践研究の内容について

1 研究体制の工夫

本校では、「久米小学校児童の確かな学力向上」という目標達成のための組織を、「サンSUNプロジェクト」と名付け、全職員で取り組んでいる。学習指導部と資料環境部に分かれ、教師一人一人がそれぞれの専門分野をもち研究を推進し、その成果をHPで公開したり、「学力向上保護者説明会」で発表したりしている。

2 実践研究の内容

(1) 指導方法・指導体制の工夫改善

ア 習熟の程度に応じた学習の展開

1学期は各単元の終末に1時間、習熟の程度に応じた学習を展開した。しかし、

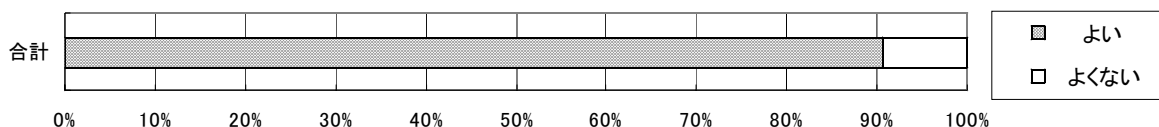
個人差が大きい「数と計算領域」に、個に応じたきめ細かな学習指導の必要性を感じ、2学期からは、単元の最初から習熟の程度に応じた学習を展開することにした。さらには、一単元の中にも各学年の実態や内容に応じて、いろいろな学習形態を取り入れている。

< 学習形態の工夫 >

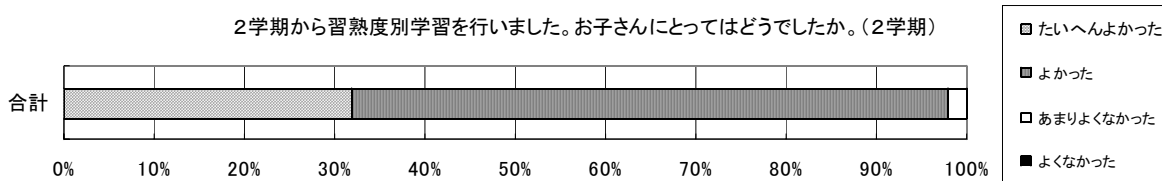
学習形態	方法	単元の内容
一斉学習 (T・T)	・ ひとつのクラスを2人の教師が教える。	・ 単元最初のオリエンテーション等
均質少人数学習	・ 教師が名簿順でランダムに2つに分ける。(一方に配慮児童が偏らないように考慮する。)	・ 習熟の程度の差が大きい単元(図形領域や小単元等)
習熟の程度に応じたコース別学習	・ ベーシック(基礎・基本)とアドバンス(発展・応用)の2つのコースから児童が選択する	・ 数と計算領域など、児童に習熟の程度の差が見られる単元
興味・関心(課題)に応じたコース別学習	・ 興味・関心(課題)に応じ、児童が選択する。	・ 課題別に展開する単元(体積・面積の求め方等)

< 習熟の程度に応じた学習の展開に関する保護者意識調査 >

2学期から単元の初めから習熟度別指導を行います。このことについてどう思われますか。(1学期)



2学期から習熟度別学習を行いました。お子さんにとってはどうでしたか。(2学期)



< 習熟度の程度に応じた学習についての感想(代表的なもの) >

(児童)
 単元によって得意、不得意があるので、自分でそのたびに選べてよい。(6年男子)
 自分にぴったりのコースを選べたから、学習もわかりやすい。(4年女子)

(保護者)
 できる子、できない子といったレベルのランク付けで苦手意識をもたないか心配していましたが、そのような感覚を持つことなく前向きに算数に取り組んでいるようです。
 個々に応じた進み方を選べるのは子どもたちに無理がいらずいい方法だと思います。本人に選択できるのもいいです。

2学期から単元によっては、最初からの習熟の程度に応じた学習を展開するのに、7月の時点では「学力差」「差別意識」などの不安があり、「よい」と答えた保護者は9割であった。2月のアンケート調査では98%が「大変よかった」「よかった」と答えた。単元毎に児童と保護者が「ふり返り問題」の結果をもとにコース選択(アドバンス・ベーシック)を行い、自分に合ったコースを選べたことが理解につながったと考えられる。

イ 算数的コミュニケーション能力の育成

算数科の学習において、自分の考えを筋道立てて説明する力を育てることは大切なねらいである。少人数指導を行うことにより、児童が発表したり、お互いの意見を交換したりする機会も増えた。しかし、自分の考えをみんなに分かりやすく説明したり、分からないことを質問したりすることは、表現することが苦手な児童にとっては抵抗が大きい。そこで、発達段階に応じた「算数的コミュニケーション能力に関するめざす児童像」を考え、「話し始めの言葉」を手がかりに児童の算数的なコミュニケーション能力を高めようと実践している。

指示棒を使いながら、「まず」や「ここまではわかりますか。」と区切りながら説明できるようになった。

<算数的コミュニケーション能力に関するめざす児童像>

	めざす児童像	話し始めの言葉		学習形態の工夫
		話す人	聞く人	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話している人の方におへそを向けて聞く。 ・自分の考えをみんなに聞こえる声で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず・・・ ・つぎに・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・続きを言います。・助けます。・さんにつけたします。(質問するとき) ・聞きたいことがあります。 	ペア学習 グループ学習 フリートーキング
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話している人の方を見て、うなずきながら聞く。 ・自分の考えを、図や絵に表して発表する。 ・自分の考えと同じ部分や違う部分を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず・・・ ・それから・・・ ・たとえば・・・ ・もし～だったら・・・ 式に表すと・・・ ・公式にあてはめると ・図(絵)に表すと・・・ ・今まで習ったことを使うと・・・ ・ここまでは、わかりますか？ (区切りながら説明する。) ・私と同じ考えの人はいますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・続きを言います。 ・代わりに言います。 ・ほかの言い方で言います。 ・ほかのやり方があります。 ・ と の同じところは(違うところは)・・・ ・それは～ということですか。(質問する時) ・ちょっと待って! ・ここまではわかるんだけど、 のところがわかりません。 ・ のところから、もう一度言ってください。 	
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話している人の方を見ながら、共感的に聞く。 ・自分の考えを、相手に伝わるよう工夫しながら発表する。 ・共通部分や相違部分を見つけたり、まとめたりする。 	(中学年と同じ) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の式で表すと・・・ ・表に表すと・・・ ・まとめると・・・ ・ここまでは、わかりますか？ 	(中学年と同じ) <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく言うと・・・ ・この中で気持ちよい解き方は・・・ 	
教師の支援	<児童がうまく言えないとき> ・教師が話し始めの言葉を言って、続きを言わせる。 <途中から交代して言わせたいとき> ・続きを言える人はいませんか？(一人が長くしゃべりすぎないように) ・代わりに言える人はいませんか？(前で説明がうまくできないとき)			

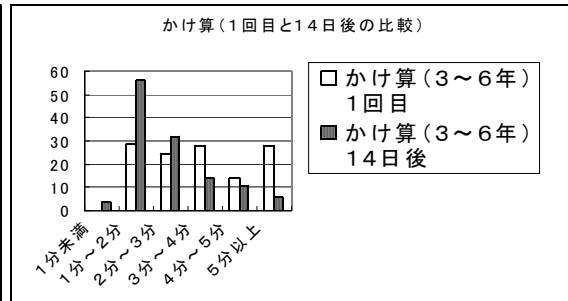
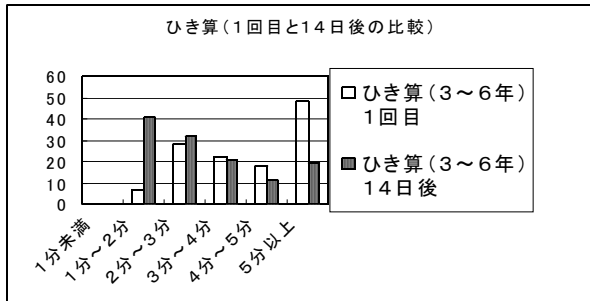
(2) 個に応じた指導の推進

ア サンSUNタイムの充実(月～金、毎朝のドリル学習)

計算力向上の時間として、朝の会終了後10分間サンSUNタイムを設定した。

(ア) 1学期の取組

2年生以上で100マス計算に取り組んだ。加減乗除それぞれの計算は、14回ずつ同じものを続けて行い、毎回のタイムをがんばりグラフに表した。2回目からは1回目のタイムをもとに自分で目標タイム設定を行い、目標を達成した児童は賞揚し、伸びの少ない児童には励ましを行った。3年生以上では、たし算・ひき算・かけ算で、タイムが1分前後向上した児童が多く見られたが、中には回数を重ねてもタイムや正答率が向上しにくい児童もいた。自分との競争で意欲が増し、集中して取り組めた児童が多いが、計算の仕組みをよく理解していない児童にとっては、学習意欲を維持していくのが難しい時間になっていた。



(イ) 2学期の取組

そこで、2学期は各学年の学習内容に応じて計算問題を作成(例4年生 たし算・ひき算・かけ算・わり算の筆算・小数)した。問題数を自分で選択し、スモールステップでレベルを上げていき、がんばりカードに記入した。2学期末4年生では76%が全ての計算の名人となった。児童の意識調査では93%の児童が2学期のサンSUNタイムを「がんばった」と、答えた。

< 2 学期サンSUNタイムの活動の流れ >

()	100玉そろばん(導入2~3分)
()	コース(問題数)選択の確認 計算問題の確認(3~5分)
()	自己採点 サンSUNファイルにとし、計算がんばりカードに記入(3分)

イ サンSUN広場(放課後の補充的な学習)の実施

少人数学級でのきめ細かな指導を展開しているが十分ではない面もある。授業での理解が十分でなく、教師の適切なアドバイスや指導を必要としている児童を対象に、2年生以上放課後の30分間(月・火・木・金)、補充的な学習を2学期より設定している。予想を上回る60名以上の希望者があり、大変好評である。

(3) 学力の評価を生かした指導の改善

ア 各学年の必達目標の明確化

必達目標とは、学年終了時にはここまでの学力を保证するという学校の公約である。学力検査を基に、児童の実態に応じて達成可能な基礎学力の到達度を学年毎に数値化した。今年度は「計算力」を「正確さ」と「速さ」の2つの尺度で評価した。その結果、ほとんどの目標については向上が見られた。

また、繰り返し学習しないと定着しにくいことも明らかになった。

3年 必達目標		15年9月	15年11月	16年2月
単元テストの平均が8.5点以上		8.7点	8.7点	8.7点
繰り上がりのある足し算が1分間に1.5問できる。		6.8%	8.2%	6.8%
繰り下がりのある引き算が1分間に1.5問できる。		3.0%	6.1%	2.9%
かけ算九九が1分間に2.0問できる。		9.0%	9.4%	9.3%
あまりのないわり算が1分間に1.5問できる。		6.6%	3.0%	7.7%
4年 必達目標		9月	11月	12月
単元テストの平均が8.5点以上		8.9点	8.9点	8.9点
あまりのないわり算が1分間に2.0問できる。		7.3%	8.5%	9.3%
あまりのあるわり算が1分間に1.0問できる。		4.2%	3.8%	6.9%
2位数×2位数のかけ算の筆算が5分間に3問できる。		6.2%	1.0%	1.0%
3位数÷1位数のわり算の筆算が5分間に3問できる。		7.7%	1.0%	1.0%
5年 必達目標		9月	11月	12月
単元テストの平均が8.0点以上		8.0点	8.8点	6.7点
あまりのあるわり算が1分間に1.5問できる。		3.9%	4.8%	5.0%
小数のかけ算の筆算が5分間に3問できる。		8.6%	8.5%	9.6%
小数のわり算の筆算が1分間に3問できる。		6.8%	7.3%	8.3%
小数の足し算・引き算が1分間に1.0問できる。		9.6%	8.5%	9.6%
6年 必達目標		9月	11月	12月
単元テストの平均が8.0点以上		8.7点	8.4点	8.3点
あまりのあるわり算が1分間に2.0問以上できる。		6.2%	5.7%	7.6%
小数のわり算の筆算が5分間に3問以上できる。		7.4%	8.2%	9.4%
分数の引き算が5分間に3問できる。(計算結果約分)		3.8%	8.0%	7.0%
分数のわり算(約分あり)が5分間に3問できる。		未習	未習	8.8%

2 今後の課題

- (1) 評価基準を基に、観点別評価を行っている。また、児童は毎時間自己評価を行っている。今後は自己評価を分析したり、具体的な評価基準を作成したりすることにより、指導に生かす評価について研究を推進していきたい。
- (2) 習熟の程度に応じたコース別学習や均質少人数学習、興味・関心、課題別学習など、それぞれの内容に応じた学習形態を児童の実態を見ながら工夫し、授業改善していきたい。
- (3) それぞれのコースの中で、さらに個に応じたきめ細かな指導が展開できるよう、教材の開発や教師の指導力の向上に努めたい。

学力把握のための学校としての取組

単元最初のレディネステストや単元途中の確認問題(児童のレディネスを把握)

単元テスト(単元終了時、習熟度や定着度を把握し補充的な学習に生かす。)

月間テスト(毎月1回、基礎的な問題の定着を図る。)

CRTテスト(児童の実態を把握し、指導に生かすため7月と2月に実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年7月 学力向上フロンティア事業研究発表会開催予定

研究成果普及のためのHP作成(<http://ohzu-kume-e.esnet.ed.jp>)

保護者や地域への発信

- ・ 学力向上保護者説明会(第1回9月10日・第2回1月14日)
- ・ サンSUN通信の発行(平成15年9月より毎月1回発行)

【新規校・継続校】	<input type="checkbox"/>	1 5 年度からの新規校	<input type="checkbox"/>	1 4 年度からの継続校
【学校規模】		6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	<input type="checkbox"/>	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級
【指導体制】	<input type="checkbox"/>	少人数指導 一部教科担任制		T . T による指導 その他
【研究教科】		国語 生活 体育	社会 音楽 その他	<input type="checkbox"/> 算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	有 無